

Lower Relapses Rate With Infliximab Versus Adalimumab in Sight-Threatening Uveitis: A Multicenter Study of 330 Patients.

ぶどう膜炎におけるインフリキシマブとアダリムマブによる再発率の低下:330 症例の多施設共同研究

Maalouf G, Andrillon A, Leclercq M, Sève P, Bielefeld P, Gueudry J, Sené T, Titah C, Moulinet T, Rouvière B, Sène D, Desbois AC, Domont F, Touhami S, Thibault T, Chamieh CE, Cacoub P, Kodjikian L, Biard L, Bodaghi B, Saadoun D.

Am J Ophthalmol. 2022 Jun;238:173-180. doi: 10.1016/j.ajo.2022.02.002. Epub 2022 Feb 13. PMID: 35172172.

本論文は、ベーチェット病、若年性特発性関節炎、サルコイドーシスに伴うぶどう膜炎や特発性ぶどう膜炎におけるインフリキシマブとアダリムマブ投与開始後の再発率を後ろ向きに検討したものです。全体の再発率は投与開始後6ヶ月では13%で、全経過観察期間(中央値74.50か月)中では40.9%でした。アダリムマブ投与後の再発率は46%、インフリキシマブ投与後の再発率は35%で、再発率についてはインフリキシマブの方がアダリムマブよりも低い結果が示されました。また、疾患別にみると、ベーチェット病が他のぶどう膜炎よりも再発率が低いことが示されました。

本邦では、2007年にベーチェット病に対してインフリキシマブが、2016年に非感染性ぶどう膜炎に対してアダリムマブが保険適応となり、多くの難治性ぶどう膜炎の患者さんがその恩恵を受けることができるようになりました。今後も様々な生物学的製剤がぶどう膜炎の治療に加わることが期待され、今後はそれらの治療をどの様に選択していくかを検討していくことが必要になってくると思われます。

(担当者：北海道大学 鈴木 佳代)